

自己評価報告書(最終報告)

報告者

自然系コース(理科)
／栗田 高明

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

日々の研究において経常的研究費が不足する場合は、必要に応じて科学研究費補助金に応募する。また申請の必要がある場合に備えて、日々の研究を大事にする。

2. 点検・評価

本年度は、科学研究費補助金の申請を行わなかった。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

学生等が、ここで研究を行いたいと思う魅力ある学術研究を行うために、できるだけ研究に専念できる時間をつくる。

2. 点検・評価

一週間のうち金曜日(前期・後期)が講義等が無かったので、ほぼ学生との卒業研究や自身の学術研究に時間に充てた。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

学生総合相談室の相談員(アドバイザー)として、可能な限り学生の相談に対応する。また理科(物理)の基礎的学力をつけさせるため、授業において演習を取り入れ内容理解の定着を目指す。

2. 点検・評価

平成24年度4年次生のクラス担当であったので、折に触れて学生の相談に応じた。また物理学Iでは、講義後の知識の定着を図るため、講義内で演習を行わせるとともに、演習問題を課題として与え、次回の講義の中で丁寧な解説を行った。また卒業予定の4年次生の卒業発表会にすべて参加し、適宜質問、コメント等を行った。

II-2. 研究

1. 目標・計画

採択された平成24年度京都大学原子炉実験所共同利用研究について、実験所員とともに積極的に共同で研究を行う。エネルギーを理解するための教材等の開発を一層進める。

2. 点検・評価

平成24年度京都大学原子炉実験所共同利用に採択され、計3回出張実験を行った。また得られた研究成果を以下の研究会等で発表した。

2012年12月14日 H24年度京都大学原子炉実験所ワークショップ「材料照射効果と応用」天然鉱物の照射誘起発光
2013年1月29日 京都大学原子炉実験所第47回学術講演会 天然方解石の照射誘起発光

エネルギーを理解するための教材を開発し、来年度徳島県総合教育センターの研修で利用する予定である。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

教員免許状更新講習実施委員会委員および予算財務管理委員会委員として、本学の運営に貢献する。

2. 点検・評価

教員免許状更新講習実施委員会委員および予算財務管理委員会委員として会議に出席し、教育部を代表して意見を述べるとともに、教育部会、コース会議で報告を行った。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

特別講演や授業研究会など附属学校園や、外部からの講師、助言者等の依頼があれば時間の許す限り引き受ける。また留学生からの相談があれば対応する。

2. 点検・評価

附属中学校の授業研究会、徳島県立阿南特別支援学校(指導学生の教育実習助言)、また以下の教員研修等を行った。

2012.7.31 平成24年度高等学校教育課程研究集会理科部会 講義「放射線を正しく知る」研究協議「放射線をどう教えるか」の講評(板野郡板野町 徳島県立総合教育センター)

2012.8.2 平成24年度理科研修講座(中・高・特)エネルギー・粒子コース 講義「放射線について」「霧箱」実習指導(板野郡板野町 徳島県立総合教育センター)

2013.1.22 徳島県立富岡西高等学校理数科(1年および2年)出張講義「放射線について」(徳島県阿南市 徳島県立富岡西高等学校)

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)